



ざんぐり



京都SKY大学
同窓研修会会誌
第109号



夏のバス研修旅行 和歌山県 高野山・金剛峯寺(2, 3ページ参照)



一 目 次

夏のバス研修旅行	「涼を求めて標高約900m 高野山・金剛峯寺へ」に参加して …… 伊藤哲(2)(3)
春の地域活動	「山科柳辻から勧修寺の地域活動」に参加して …… 法正すい子(4)
共催講演会	「大地変動の時代－生き抜くための地震学」を聞いて …… 寺田泰三(5)
歩こう会	第47回目標歩数歩こう会の結果報告 …… (6)
投稿	「アースデイ」(その1) …… 木村高志(7)
事務局だより	各種講座案内、秋のバス研修旅行案内、他 …… (8)

発行 / 京都SKY大学同窓研修会
編集 / ざんぐり編集委員会

夏のバス研修旅行 2022年7月11日

「涼を求めて標高約900m 高野山・金剛峯寺へ」に参加して

理事 伊藤 哲

2022年7月11日。市内では祇園祭前祭の鉾立が始まる中、今年は梅雨前線が早くに消えて梅雨明けが早かったのですが、戻り梅雨のような天候の中、ちょうど11日は曇り空でバス旅行にはまずまずの日和でした。京都駅八条口バスプールを8時前に出発。高速道路で南海電車橋本駅を目指します。10時13分発の南海電車「天空」に乗る事約40分、展望用シートで車窓を楽しみ、車内案内で所々の名所解説を聞きました。真田幸村所縁の地を過ぎ、終点の極楽橋からは5分ほどのケーブルカーの乗車です。急こう配の斜面を一挙に上がっていきます。



南海電車「天空」で橋本駅から極楽橋まで



「天空」からの車窓



極楽橋からケーブルカーに乗車

高野山の山の上にある盆地に1200年前、弘法大師によって開創された金剛峯寺、様々なお堂や塔が立ち並んでいます。唐から戻った弘法大師が嵯峨天皇にお願いして高野山に修行場を作ったと言われています。

回送されてきたバスに乗車して昼食会場に向かいます。昼食は高野豆腐、ごま豆腐をはじめ湯葉やこんにゃくなどの精進料理でお腹がいっぱいになりました。

昼食後は、地元公認ガイドさんにより約4kmの距離を奥の院まで散策します。戦国大名の供養塔（墓石でない）が並びます。空海



「天空」車内は展望用シート

さんの近くに居たいということだそうです。苔むした供養塔やうっそうとした木立の中に歴史や世界遺産を感じます。奥の院から移動して、金剛峯寺と根本大塔を訪ねました。金剛峯寺では幡龍庭や多くの襖絵に見入っていました。

高野山からの帰路は山の景色を楽しみながら曲がりくねった坂道を下り、途中柿の葉寿司のお土産物屋に立ち寄って、無事に京都ま

で帰ってきました。

旅行会社添乗員さんの小気味のいい案内もあり、楽しい1日となりました。参加いただいた方お疲れ様でした。お世話いただいた理事の皆様ありがとうございました。次回のバス旅行もお楽しみに。



奥の院へ



地元ガイドさんによる説明



金剛峯寺



金剛峯寺・幡龍庭



根本大塔



春の地域活動 2022年5月13日

「山科榊辻から勧修寺の地域活動」に参加して

法正 すい子

山科の榊辻駅に21名が集合。山科地域の「ふるさとの会」浅井定雄様のご案内でした。

スタート地点の榊辻は大きな榊の木が目印。榊の葉は葉脈が縦になっているので切れ難い、男女の契り、財布に入れておくと良い、熊野信仰の木などと縁起もので、かつて昔も榊の大樹があったそうで、榊辻の地名に由来します。

市営住宅建替の際の発掘調査で、竪穴住居床下面から「ナイフ形石器」が発見されました。ナイフになる元の石は「讃岐石」、原石を打ち石器を作る時の剥片や石核も出土している為、全てこの地で作っていた事が明らかになり、ナイフ形石器は2万5千年前のものである事も明らかになりました。

「中臣遺跡」は大規模な集落で多くの人が住み、出土した壺にはカラスの足跡が描かれている特徴から、朝鮮の百済からもたらされた事が分かります。若狭から琵琶湖西を結び交流があった事が伺えます。3分の2が焼け跡、大和政権成立まで戦乱に巻き込まれていたようです。中臣鎌足らを出した中臣氏(後の藤原氏)の一時期本拠地であり、中臣鎌足の館があった可能性が高く、鎌足は山科で死亡しています。



勧修寺 庭園「氷室の池」の前で

「坂上田村麻呂公園」は征夷大將軍として蝦夷地を平定、薬子の変を鎮圧、清水寺を創建した事で有名な人物・坂上田村麻呂が54歳で亡くなり、葬儀が営まれた地です。墓地は大きな森だったそうですが台風により倒木、安全の為に伐採が行われ明るく見通し良い公園になっています。

「勧修寺」、正式寺名は「かじゅうじ」です。醍醐天皇が母(宇多天皇の女御・藤原胤子)の菩提を弔う為、母の生家・宮道弥益の邸宅を寺に改めたのが創建です。本尊は千手観音菩薩像です。皇室との関わりが深く、代々法親王が入寺された門跡寺院です。勧修寺一帯に広大な寺領・伽藍がありましたが、応仁の乱で焼失、また、豊臣秀吉が伏見城を造営する際、山科の石を切り出し大石街道を運ぶ時、難癖をつけて勧修寺の領地を半分にしました。後に復興させたのが徳川光圀公です。

現存する本堂・宸殿・書院などの伽藍は霊元・明正天皇などの旧殿が下賜されたものです。宸殿は明治初期、山科初の小学校(勧修小学校)が開校されました。庭園は「氷室の池」を中心に、周りの山を借景にした自然の美しさで落ち着きを感じます。この池の氷の厚さで五穀豊穡を占うという、皇室の行事に献上されていました。書院前の庭園の樹齢750年の「ハイビャクシン」は、一本の木から枝が庭一面に広がっています。その中程には水戸黄門様寄進の石灯籠が埋もれるように立っています。

山科川の長い桜並木も勧修寺庭園も青葉若葉が目優しく、爽やかな史跡をめぐるウォーキングでした。お世話いただきました係りの皆様に心より感謝申し上げます。

共催講演会 2022年7月25日

「大地変動の時代－生き抜くための地震学」を聞いて

理事 寺田 泰三

「怖いけれど、知りたい」「まだ先のことだと思っていたのに、備えをしなくちゃ」。

7月25日のロームシアター京都。地球科学と火山学が専門の鎌田浩毅・京都大学名誉教授の講演テーマは「大地変動の時代へ生き抜くための地震学」。「南海トラフ巨大地震」「富士山噴火」「首都直下地震」は必ず発生する。それもあと十数年後にと断言。衝撃内容に500人近くの受講生はどんな覚悟を胸に刻み込んだのだろうか。

「京大人気No.1教授」。人気取りと誤解されそうなキャッチコピーは、とにかく大災害が迫っていることを知ってもらい、生きるための備えをしてほしい、との思いを伝えるための看板だ。

この日の受講生世代の人生を振り返れば、阪神・淡路大震災までは地震や火山活動をそれほど恐れず過ごしてきた。恵まれた時代。「それはたまたま、地震の静穏期だっただけ」と教授は言う。東日本大震災では日本列島の乗るプレートの岩盤が割れて、日本列島全体が不安定に。約2000本ある列島の活断層のうち、100本ぐらいも動きやすくなり、内陸型地震は増加、火山は富士山を含め20個程度の活火山が噴火スタンバイ状態になっている、と指摘する。

「地震が増えてきた」と高齢者世代は感じ始めているが、「生きているうちは超巨大地震は起きないだろう」と思いたい心理も。「いやいや甘い」と鎌田教授はバツサリ。

100年に1回程度の頻度で起きている南海トラフ地震は、過去の記録や地震時の隆起量と変化の観測などから、2035年を軸に±5年以内に起きると断定。東日本の10倍の巨大地

震。連動して活火山も噴火。富士山の噴火と首都圏への降灰により社会インフラは壊滅的な被害を受ける、と予想する。死者32万人ともいわれる南海トラフ巨大地震。受講生は、居眠りどころではないインパクトだ。

しかし、京大人気No.1教授の真骨頂はそれからだ。怖い話を知識としてわかりやすく解説。科学の伝道師でもある鎌田教授はこう力説する。「皆さんに行動するための知識を深めてもらい、今日聞いた話を活かしてほしい」と。

南海トラフ大震災の発生は、静岡から宮崎に及ぶかも。東京も富士山の噴火降灰で機能しない。どこからも助けはこない。「自分のことは自分で守らなければ生き延びられない」と、訴える。切り抜けるポイントは知識。知識を回りの人とシェアしてほしいというのだ。そして、こんな言葉が印象に残る。「大災害の発生予想時期と規模を心の手帳に書いてほしい。回りの人に事あるごとに伝えてほしい。備える人が増えれば、被災者は減る。そして被災を免れた人が他の人の救援に回れる」。

自分の身は自分で守る。そのための備えを急ぐ。講演中にこう思ったことを思い出していただきましたか。ちなみに名誉教授が持ち歩いている備えは水、ペンライト、甘い食べ物でしたね。



第47回 目標歩数歩こう会の結果報告

2022年4月～5月の2ヵ月間に亘り「目標歩数歩こう会」を実施し致しました。今回も新型コロナウイルス感染症の中、16名の方より貴重な実績報告をいただきました。皆さまありがとうございました。



順位	氏 名	合計歩数	1日平均歩数	目標歩数	達成率
1	福岡 克巳	1,321,719	21,668	20,000	108%
2	小田 和昭	1,246,444	20,433	15,000	136%
3	五十嵐将三	1,071,733	17,569	15,000	117%
4	堀井 信一	739,787	12,127	15,000	81%
5	亀山みさ子	688,275	11,283	9,000	125%
6	藪内 豊造	667,945	10,948	10,000	109%
7	内藤 彰	660,307	10,824	10,000	108%
8	木村 高志	655,410	10,744	10,000	107%
9	木下 明美	653,145	10,701	8,500	126%
10	井上 昌幸	491,600	8,060	8,000	101%
11	清水 将由	491,405	8,056	7,000	115%
12	近藤 輝雄	398,650	6,535	5,000	131%
13	関矢 幸子	380,921	6,244	6,000	104%
14	干場 信一	367,431	6,023	6,000	100%
15	堀 正子	284,400	4,662	4,000	117%
16	中曽 偉人	251,677	4,126	5,000	83%
合計		10,370,849	170,003	153,500	111%

(敬称略)

次回は10月～11月です。

(健康福祉担当理事 小林 木村 中曽)

投 稿

アースデイ (その1)

副会長 木村 高志

4月22日SKY大学同窓研修会の総会が開催された日は奇しくもアースデイでした。1970年、アメリカではまだ環境問題に取り組む政治家は少数でしたが、上院議員のG・ネルソンは地球環境の悪化が人類に深刻な事態を招くことを多くの人に認知してもらうため提言しました。その日が4月22日とされており、自発的に「地球のことを考えて行動する1日」として世界中で環境イベントが開催されるようになりました。日本では東京銀座の歩行者天国はアースデイが切っ掛けで始まった取組の1つです。

アースデイが提唱されたのは半世紀前の1970年で、大阪で日本万国博覧会が開催された年でもあります。高度成長期の真っ只中にあった日本では、大量生産・大量消費と引換えに環境破壊・公害問題が深刻化し1967年公害対策基本法が成立し1971年には環境庁が設立されました。1972年のユネスコ総会で、「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」(世界遺産条約)の世界自然遺産は、地球が作り出した美しい自然と造形は産業や経済活動の為に簡単に破壊するのでなく人類共通の財産として保護し後世に伝えていくことが合意された。1997年には「京都議定書(2005年発効)」が採択されるなど世界全体で地球温暖化に対する問題意識が広まり始めます。

「アース・地球」は地球の贈り物。46億年前小さな惑星同士ぶつかりマグマの海の地球が誕生した。40億年前、水蒸気が冷えてマグマが固まり、地殻に覆われた大地ができ、大気が冷やされて水蒸気が雨となり原始の海が出来ます。38～35億年前、最初の生命である単細胞生物の細菌や植物の藻植物が生まれます。27～19億年前、ラン藻類のシアノバクテリアが大量に出現し太陽と二酸化炭素を使って光合成を行ない「酸素」を作ようになります。10億年前多細胞生物が出現。植物は5

億年前地上に上陸した。4億6000万年から2億3000万年前に魚類、種子植物、爬虫類、恐竜などが出現しました。その間地球は地殻変動で超大陸の形成と分裂によって大量絶滅と進化を何度も繰り返しました。地下に閉じ込められた地表の生物は高压高温によって石炭・石油などの地球資源になった。6550万年前に霊長類が出現。2500万年前に最古の類人猿が出現。やっと20万年前にホモサピエンスがアフリカに登場します。第一次産業革命は18～19世紀に掛けてイギリスで始まった。

現代人が生きる為に必要な大量エネルギーも石炭に始まり石油、更に原子力はクリーンエネルギーであるという認識が広まり1970年から2010年に渡り54基の原子力発電所が建設されました。2010年に策定された「第三次エネルギー基本計画」において、「2030年に、原子力発電比率50%超を目指す」と記載されました。ただ2011年東日本大震災で福島第一原発の事故が発生し深刻な被害をもたらし、2014年「第四次エネルギー基本計画」では「原発依存度については、省エネルギー・再生可能エネルギーの導入や火力発電の高効率化などにより、可能な限り低減させる」と明記されています。

私たちシニア世代は、科学技術の飛躍的な発展と開発のもと地球からの贈り物を無尽蔵に消費する技術を手にして全ての人間に公平ではありませんが豊かな生活を営むことが出来てきました。アースデイ「地球のことを考えて行動する1日」でなく毎日行動することが環境破壊を止めて元に戻す事が子供や孫の次世代への責務です。

2030年までに持続可能なシステムにしなければならない3つの危機①地球の温暖化②水・食料の格差③プラスチック汚染。全人類共通の目標SDGS(持続可能な開発目標・誰一人取り残さない)。

事務局だより

行事予定 (詳細は別紙参照)

講座 京都府立植物園
秋の草花巡り日 時：2022年10月28日(金)
10時00分～

場 所：京都府立植物園

講 師：京都府立植物園公認ガイド
青木壽子氏講座 京都市立動物園
ようこそ動物園へ日 時：2022年11月18日(金)
10時00分～

場 所：京都市立動物園

講 師：京都市立動物園センター長
田中正之氏

共催講演会

日 時：2022年11月21日(月)
14時30分～

場 所：ロームシアター京都

演 題：京都の凸凹を歩く
ー 高低差に隠された古都の秘密

講 師：京都高低差崖会崖長 梅林秀行氏

秋のバス研修旅行

実施日：2022年10月28日(金)

行 先：奈良県 明日香村方面

秋のウォーキング

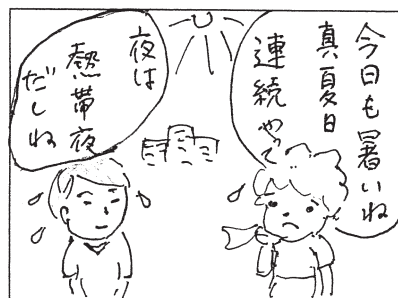
実施日：2022年10月24日(月)

行 先：山科区 山科川方面

秋の地域活動

実施日：2022年11月25日(金)

行 先：伏見区 中書島方面

ひねもす
のたりのたり

監事

米澤 可矢作

京都見聞・
こぼれ話第5号「京都・伏見の酒」
をお届けします。次号「ざんぐり」は、
12月15日発行の予定です。